

テーマ「パワハラ・セクハラ」

世間を賑わせている（世間をざわめかせる）パワハラ、セクハラ問題です。当院でも残念ながら大小発生しており、その問題点について考えてみました。戦前日本は帝国主義、軍国主義であり、鉄拳制裁が当たり前。それが戦後、アメリカ文化が入り、女性の権利が確立し、公民権、選挙権と広がり、男女同権がなされてきました。また暴力を用いた教育、罵倒というのも表向き過去のものとしてきましたが、古くから日本の悪しき伝統が残っているのも事実です。

では、当院での取り組みはどうか？ 自分自身がパワハラ、セクハラを行っていると認識するのは非常に困難です。人前で少しやりすぎたかなと気付く人はまだましな方です。やはり相手や周りの人から指摘されないとわからないものだと思います。パワハラ、セクハラと誰かが感じればそうなのです。では被害を受けたと感じた人が何処に報告するのか。報告した人が二次被害を受けないのか。報告を受けた人が、迷わず院内にある「相談室」に駆け込み、「労働安全衛生委員会」が迷わず、また、無用な差し止めをせずに、私のところに報告が上がってくることを希望します。

その後はもちろん、きちんと公正な調査を行い、フィードバックします。物品購入にしてもそうですが、声の大きい者の意見ばかりが通るようでは組織が進歩しません。少数の意見、一般職員の言葉が届くような組織作りをして行きたいです。病院で大事なのはそこで働く「人」です。人が集まって皆で努力をして得た「物」品で患者さんにより良い医療を提供し、さらに、もし利益が出たら、お「金」をかけて病院を改修し、アメニティーを高くし、医療機器を充実させ、さらには職員の教育にそれを充てます。

当院も六月一日で一五周年を迎えます。院内の大改修を予定しました。これからも皆様のご健康をお祈りいたします。

平成三十年四月二十三日 藤井 茂

第十九章



藤井茂